



「城下町中津ひなまつり」を歩く

江戸時代の旧商家や武家屋敷の町並みが、どこか懐かしい中津市は福澤諭吉先生の故郷です。2月25日～3月12日に「城下町中津ひなまつり」が開催されました。築二百年の商家で市指定文化財、南部まちなみ交流館をはじめとし、蛭子神社、福澤諭吉旧居、村上医家史料館、そして代々受け継がれる家々では、有職雛、享保雛、おきあげ雛など、江戸中期から現代に至る雛人形が所狭しと飾られ、地元の子供たちや人々の目を楽しませてくれます。

1)

交流館のある諸町（中津市の南面に位置し、東西約4百メートルの職人の町。この町の西側3分の1には藩士の屋敷があったが残りには色々な職業の職人が住んでいたのが諸町の名があると云われる）では、琴の演奏で女子の節句に花をそえ、座布団や椅子が準備されているので、ゆったりと琴音を聴きながら、雛人形を楽しめるのは有難いです。普段は、長閑な城下町も、この日は市民が子供の成長、幸せを願い桃の花、菜の花で家々を飾り街全体がピンク一色に染まります。通りには、黄色にピンクの帽の園児らが引率され、家々を廻り、可愛く挨拶する声に町は活気づきます。慶応義塾OBの菊池家の味噌蔵には、5段の雛飾りがあります。立ち寄った際、子供たちと一緒に、風月会HPへの掲載の説明と了解を得て撮った写真は、子供らの可愛い表情が自然な感じで、雛祭り会場の楽しい雰囲気を与えています。



諸町から徒歩15分の福澤諭吉邸では、福澤家旧蔵の雛人形（有職雛）が飾られていました。雛人形は、徳川齊敦の国子姫が奥平家に輿入れの際に持参したもので慶応義塾に贈られたと伝えられています。期間中は、旧居も開放していますので、座敷に上がり雛飾りを鑑賞できます。宮廷文化を継承する雛人形のお顔から衣装に至るまで優美可憐なお姿にうっとりし、時間が経つのを忘れさせます。ここでも、琴演奏に野点が催されています。



城下町はこじんまりとしており、歴史や史跡、史料館は徒歩圏内に廻れます。来年の「城下町中津ひなまつり」訪れてみてはいかがでしょうか。中津っ子のおもてなしの心で、皆さまをお待ちしています。

1) 南部まちなみ交流館運営協議会、中津市総合政策課発行。() 内引用。

渡邊 郁美

中津の街並み



福澤諭吉邸

